

# 第五回 塩津能の會九州公演

故塩津清人三十三回忌追善

平成30年11月24日(土)午後1時30分開演

(12時30分開場)

## 大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号 TEL 092-715-2155  
<http://www.ohori-nougaku.jp>

【鑑賞券】

- 正面(指定席) / 7,000円
- 正脇正面(指定席) / 5,000円
- 中正正面(指定席) / 4,000円
- 正脇正面(自由席) / 6,000円
- 中正正面(自由席) / 4,000円
- 中正正面(自由席) / 3,000円

【電話予約・お問合せ】

塩津能の會事務局  
 TEL/FAX: 03-3330-6803

【オンラインチケット申し込み】

<http://kita-noh.com/ticket>

(クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會オアシナルサイト

<http://www.shiotsu-noh.com>

詳しくはこちらへ→



主催：一般社団法人 塩津能の會

【会場案内】



### 能とは？

能とは舞(動き)と謡(歌・セリフ)による舞台演劇です。しかし、現代の演劇の大半が、ドラマや、つまり時間を経縮した物語であるのに対し、能は逆にキヌメタリ、つまり時に引き延ばしたもので。一瞬と人の出会い、別れ、生死などを行い、これらの背景にあるさまざまな物語を、観る人それぞれが心の中に描きます。これによって能は百人が観れば百通りの見方ができる舞台芸術です。つまり隣の人との感想が違ふことがあって、それが難解と言われるところですが、しかしこれこそが能の持つ魅力です。

### 九州(福岡)での喜多流の歴史

大濠能楽堂を擁する福岡は喜多流にとって由縁の地です。流祖・喜多七太夫長能が黒田藩の庇護を受け、たことで開流に繋がりました。また明治維新の動乱期にも喜多流の大先輩、塩津只圓が黒田藩のお抱え能楽師として困難を乗り越え、福岡の能楽の隆盛を築きあげました。大濠公園能楽堂の中庭にあるのは只圓翁の胸像です。この由縁の地福岡に、またひとつ能楽・喜多流の新しい灯を燈すために、熊本ゆかりの能楽師塩津哲生・圭介が「塩津能の會」九州公演第五回を催します。日本が世界に誇る伝統芸術「能楽」の精華を文壇界に響かせる福岡の地に、そして広く九州の地へとあふれ、広がることを目指して活動に取り組んでまいります。

### 文化継承！

和風建築が減少し、量の部屋がないという住まいも、多く見られ、正座という礼儀作法すら出来ない、知らない人達が増加している現状にはどこも不安を感じます。昨今文化発展向上の声はあんなに、伝統文化の衰退が目につきます。能界の先人達も能の魅力の後世に伝えようとして、明治維新も敗戦の困難時をむかえ、その道を全うして来られました。喜多流の九州内での唯一が激減した現状を何とかな再興し、先人の思いを継ぎ伝えることが現代に生きると私達の使命と思えます。

おはなし

塩津 圭介

舞臺子 実盛

塩津 哲生

大鼓 白坂 保行  
小鼓 幸 正佳

笛 相原 一彦

地謡

高林 昌司  
佐藤 寛泰

友枝 真也  
大村 定  
中村 邦生

あらすじ

高融

平家の名將で名を得た賢勝別当兼盛の物語で、碓原の合戦の時、賢勝を襲て染め、錦の香垂を着て若やいだ姿で鞆に上り、討ち死にしようとしたが語の纏がれています。老いを隠すため染めた黒い髪を、木曾義仲の前で洗い流す場面や手塚太郎と組んで討ち死にした処を見せる後半の部分には、写実的な所作の多い見心えの有名な曲です。叙行繪巻で、囃子方、地謡のみを伴った舞臺子で演じます。

実盛

あらすじ

都に上った東国の僧が、六条河原院まで来たところ、ひとりの泣泣みの田子を背負った老人が現れます。六条河原で泣泣みとは、と不思議に思った僧が尋ねると、老人は、この河原院はかつて河原左大臣といわれた源融が、陸奥千賀の塩籠の雄大で美しい鷹勝をそのまま都に作り、移る住んだところだ、との謂れを語ります。その次に見か出て辺りを照らし、極深い秋の夕景色が二人の眼前に広がります。源融といふ人は、毎日難波から汐を汲ませてきては院の庭で汐を焼かせ、その景色を楽しんでおられたいそう風流な人であったが、後を継ぐ人もなくこの河原院は荒れ果ててしまっただのだ、と老人は嘆きます。僧は、この老人を慰めようと一纏に秋の名目を説くことにしました。か、しばらくして老人は、汐を汲む時刻まで池の汀に立ち替ったかと問うと、姿を消してしまします。

その夜、先ほどの老人こそ大臣の亡霊であった気がついた僧が眠りにつくと、在り日夕の姿で融の亡霊が現れ、月光に照らされながら華麗な遊樂に乗って舞いを舞います。生初遊樂そのまじに、この月夜に興じていただき、やがて夜明けとともに名残惜しい面影を残して月の都へ帰っていくのでした。

能 高融

ワキ 森徳 御厨 誠吾

大鼓 白坂 保行  
小鼓 幸 正佳

太鼓 吉谷 潔  
笛 相原 一彦

〔休憩二十分〕

問答所のおき 野村 万禄

後見 中村 邦生  
地謡 友矩

工藤 義彦  
友枝 真也  
佐藤 野祐一  
大村 定  
佐藤 寛泰  
塩津 哲生  
渡辺 康喜  
高林 伸二



「融」前シテ



「実盛」後シテ



塩津 哲生



塩津 圭介

- 1995 喜多藏分塩津清八の役男 熊本市出身
- 1997 「縁成」にて初シテ
- 1999 十五里喜多藏家故事多楽師として内教修行のため上京
- 1991 「運成寺」を披露塩津
- 1986 日本能楽協会員重要無形文化財総合指定
- 1990 今上天皇即位の礼で「石橋」子獅子を物める
- 2008 宗廟後文部科学大臣賞受賞
- 2007 細井良夫記念能楽奨励賞
- 2008 能楽家協会賞
- 塩津能楽會理事
- 札幌、東京、福岡、熊本、大牟田、竹田各地に相門会理事
- 1984 喜多藏能楽師協会会長として東京に上京
- 1987 喜多藏能楽協会に「物子方」田川を物める
- 1996 子方の卒業試験として「島帽子折」を物める
- 1997 大分県竹田市塩津清八記念能楽台落成能にて初シテ「田村」を物める
- 2004 若者による若者のための能「若者能」をたらちけ、以後毎年公演
- 2008 熊本県立大学教育學部卒業
- 2009 APU立命館アソブ太平洋大学非常勤講師に就任
- 2011 喜多藏能楽師の会常務理事に就任
- 2015 運成寺を披露、独立